

平成29年第2回定例会

一般質問通告書

流山市議会

平成29年第2回定例会一般質問通告順

日付	順番	議員名	会派名
6 月 20 日	1	青野直	流政会
	2	根本守	自由民主党
	3	野田宏規	流政会
	4	森田洋一	市民クラブ
	5	近藤美保	流政会
6 月 21 日	6	藤井俊行	市民クラブ
	7	小田桐仙	日本共産党
	8	乾紳一郎	日本共産党
	9	植田和子	日本共産党
	10	徳増記代子	日本共産党
6 月 22 日	11	西川誠之	市民クラブ
	12	西尾段	市民クラブ
	13	加藤啓子	自由民主党
	14	斉藤真理	公明党
	15	菅野浩考	
6 月 23 日	16	楠山栄子	市民クラブ
	17	野村誠	公明党
	18	坂巻儀一	流政会
	19	戸辺滋	公明党
	20	阿部治正	

質問事項	要 旨
<p>1 流山市総合計画後期基本計画における人口及び財政課題への取り組み姿勢について</p>	<p>(1) 本市の基本構想で位置付けている平成 3 2 年の将来人口 2 0 万人は、T X 沿線開発等による効果を精査すると位置付けている。T X 開通以来人口増加が続く本市にあって、今後公共施設をどのように整備・運営すべきかを考えた時、T X の東京駅延伸も考慮した精度の高い人口の見通しは欠かせない重要な課題と考えている。当局の見解を問う。</p> <p>(2) 後期基本計画下期実施計画(平成 2 8 年～ 3 1 年度)における財政の見通しでは、一般会計で 4 年間の総計が約 2 , 1 0 0 億円と見込んでいる。本市では、扶助費の増加や待機児童問題、小学校の教室不足、学童クラブの不足など人口増加に伴って必要となる経費が増加すると考える。地方債残高が増加している中において、健全財政維持に取り組む姿勢を問う。</p>
<p>2 市内小学校の整備計画及び学童クラブの整備について</p>	<p>(1) 本市における小学校の教室不足に対応する整備については、本年再算定した今後 6 か年の児童・生徒数の推計値を基本に平成 2 9 年度から新設及び増設の計画を進めるとしている。後期基本計画最終年度となる平成 3 1 年度までの日程及び財源確保策について問う。</p> <p>(2) 学童クラブの整備では、小学 1 年生から 3 年生及び障がいを持つ児童について、入所基準を満たす年度当初の入所希望者全員を受け入れるため整備するとしているが、取り組み姿勢を問う。</p>
<p>3 流山本町の活性化及び南部地域の安全対策について</p>	<p>(1) 流山本町には葛飾県印旛県庁跡、通称田中藩陣屋跡、近藤勇陣屋跡等、数多くの史跡が残されている。流山本町における交流人口の増加や更なる地域の活性化を目指す上から、交流人口の増加と訪れる人を楽しませる指定文化財を発掘する必要があると考えるがどうか。</p> <p>(2) 流山本町中道の自動車速度規制時速 3 0 k m / h の見通しについて問う。</p> <p>(3) 平成 2 6 年第 4 回定例会で答弁のあった流山線 2 5 号踏切の拡幅計画の見通しについて問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 本市のコンセプトである「都心から一番近い森のまち」のイメージ維持について</p>	<p>(1) 市街化区域内に位置する私有地の森林等が減少していくことを嘆く声が後を絶たないため、政策的に、市民の森を増やしてはどうか。</p> <p>(2) 市内各小学校内にあるビオトープの整備を強化し、良質な環境の継続性を担保してはどうか。</p> <p>(3) オオタカは今や流山市の象徴となっていると考えるが、オオタカを「市の鳥」として制定してはどうか。</p>
<p>2 本市救急隊の増隊について</p>	<p>(1) 平成28年第1回定例会の一般質問を受け、準備されている本市救急隊の増隊について、以下のとおり問う。</p> <p>ア 救急隊の増隊に向けた進捗状況はどのようになっているのか。</p> <p>イ 市内全域に対して素早く救急出動するため、また、流山おおたかの森駅周辺施設での緊急事態に備えるため、流山おおたかの森ショッピングセンター敷地内に消防署の出張所を設け、増隊する救急隊を配備してはどうか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 流山本町における外国人観光客誘致の充実について</p>	<p>(1) 流山本町には、国登録有形文化財である見世蔵を代表とする歴史的な街並みや、畳、着物、和食など、古き日本の時代を感じさせる観光資源があり、外国人にとっても魅力的な日本文化を象徴していると考えます。そこで以下について問う。</p> <p>ア 外国人観光客誘致の重要性、流山本町の観光資源の魅力を当局はどのように認識しているのかについて問う。</p> <p>イ 平成 2 9 年度流山市一般会計予算には、外国人観光客誘致促進事業に関する施策が予算計上されている。現在の本事業の取り組み状況を問う。</p> <p>ウ 昨年度は、外国人に流山本町の観光スポットを歩いてもらい、観光の魅力や現状の課題を抽出するモニターツアーが数回実施された。モニターツアーの総括をどのように反映し、今年度の事業展開に活かしているのかについて問う。</p> <p>エ 観光に関するマーケティング戦略を立てることが行政の役割として求められると考えます。国や地域、所得層、個人旅行か団体旅行か、対応する言語、市内の観光資源をどのように宣伝、プロモーションするか、PR の媒体はどうするか、などを検討した上で予算執行にあたるべきと考えますが当局の見解を問う。</p> <p>オ 施策の推進には、外国語や観光を得意とする各種の市民団体や地元の店舗と協力体制を取り、それぞれの得意分野を活用しながら、弱点を補完し合うといった仕組み作りも重要と考えますが当局の見解を問う。</p> <p>カ 外国人観光客の誘致には多言語に対応した観光情報の提供ができる観光案内所が必要と考えます。既に多くの自治体で、日本政府観光局の認定を受けて、外国人観光案内所が設置されている。本市においても設置に向けた推進体制を検討していくべきと考えますが当局の見解を問う。</p> <p>キ 通訳案内士法の改正法案が施行されれば、これまで禁止されていた無資格での有償ガイド業務の実用が可能となり、また、自治体が行う研修を受講して資格を取得することができる地域通訳案内士資格制度創設など、ボランティアガイドを取り巻く環境にも変化があると思われる。当局としてはどのように改正法案の内容を認識しているのか。また、地域通訳案内士の育成を検討すべきではないのかと考えるが、当局の見解を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 子育てが困難なご家庭に寄り添う支援策について</p>	<p>(1) 保護者が体調不良で、家事や育児の手伝いをする方がいない、多胎児で育児の精神的、肉体的負担が著しい等、一定条件を満たさずご家庭に対する支援策について、以下2点を問う。</p> <p>ア さいたま市が実施している子育てヘルパー派遣事業の導入を研究してみてもどうか。</p> <p>イ ファミリーサポートに関する利用助成の拡充を実施してはどうか。</p>
<p>2 職住近接の働き場の創出について</p>	<p>(1) 情報技術が進み、場所を問わず仕事ができる環境が整いつつある。また人口減少時代における良質な労働力確保の一策としてリモートワークを積極的に導入する企業も増えている。流山市では通勤が足かせとなり働きたくても働けない優秀な方が多いため、労働政策としてリモートワークを推進してはどうか。</p>
<p>3 流山市の女性職員の管理職への登用について</p>	<p>(1) 政府は指導的地位に占める女性の割合を平成32年までに30%程度とする目標を掲げている。本市の第3次男女共同参画プランでは目標値を年2%上昇としているが平成32年に30%には到底及ばない状況で問題視している。そこで以下5点について問う。</p> <p>ア 女性職員の管理職への登用率及び登用率向上のための施策について問う。</p> <p>イ 保育士や保健師などの専門職を管理職に積極的に登用できる仕組みを整えてはどうか。</p> <p>ウ 男性職員の育児休業取得率の目標値を設定してはどうか。</p> <p>エ 家庭と仕事の両立やキャリア形成など、女性特有の課題を共有しお互いに高め合えるような女性職員のネットワークづくりを推進してはどうか。</p> <p>オ 人事行政の運営状況において、女性の管理職登用数と男女別の年齢別職員構成を毎年報告してはどうか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 「子育てのまち」を実感できる事業の展開について</p>	<p>(1) 本市では、DEWKS世帯をメインターゲットに、「母になるなら、流山市。」等のキャッチコピーを積極的に活用する事で、子育てのまちをアピールし、人口が増えてきた。これらの現状を踏まえ、地域間格差の観点から、以下の点について問う。</p> <p>ア 本市には、他市にも誇れる児童館・児童センターが市内に7施設設置されているが、児童が急増している地域には通所できる施設がなく、困っている世帯も見受けられる。当局はこれらの実態をどのように認識し、解消していくのか。</p> <p>イ 新しい公園には、子どもたちに人気の複合遊具など充実した公園整備も進められているが、地域によっては、近くにない場合が多い。この現状を計画的に解消していく考えはないか。</p> <p>(2) 子どもの居場所づくりの観点から、以下の点について問う。</p> <p>ア 総合運動公園や東深井地区公園(古墳公園)などの今後の整備計画はどのようになっているのか、具体的な計画を問う。</p> <p>イ 子どもの居場所づくりについて、全庁的に取り組む姿勢を示すことは、住民誘致を掲げるマーケティングの観点からも効果は高いと思うがどうか。</p>
<p>2 本市の環境にやさしい低炭素政策について</p>	<p>(1) 温室効果ガスの排出削減は世界の共通課題であり、化石エネルギー依存からの脱却も進めていくことは、地方自治体として重要と考える。そこで以下の点について問う。</p> <p>ア 世界的に低炭素社会を目指す試みからEV車(電気自動車)やPHV車(プラグインハイブリット車)の推進、併せて急速充電スタンドの整備を進めている。そこで、本市でも、環境に配慮した公用車の増車や公共施設への充電スタンドの設置など、先導的な取り組みが必要であると考えますが、当局の具体的な計画と見解を問う。</p> <p>イ 太陽光発電の売電価格を政府主導で倍の価格で買い取り始めて2019年で10年となり、この買い取り制度が終了する。そこで、2019年問題を踏まえて、本市が推進している蓄電池やV2H(Vehicle to Home)の補助金充実策を更に進めていくべきと思うが、当局の見解を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 教育行政について</p>	<p>(1) 流山おおたかの森駅周辺及び隣接地域における小中学校のより良い教育環境の整備について問う。</p> <p>ア 小山小学校と八木北小学校の学区の見直し案に対する説明会を実施したが、住民や保護者からどんな反応があったのか。</p> <p>イ 平成27年1月に通知された『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～』で示された「31学級以上の過大規模校の新增築事業については、分離新設、通学区域の調整等適正規模化のための方策が十分に検討された上でやむを得ない場合に限り国庫負担の対象としています」としているが、市教育委員会の見解を問う。</p> <p>ウ 平成29年4月1日時点における児童生徒数の推計値・想定値では、特別支援学級数の据え置きが前提条件のもと、学区変更の有無にかかわらず、平成35年度では小山小学校及び八木北小学校合計で児童数2,970人～3,080人、93～98学級となる。これは平成29年1月に発表した平成34年度想定値(児童数2,640～2,660人、84学級)からさらに大幅増となっている。また、おおたかの森小学校も当初24学級に加え、増築校舎分18学級の合計42学級を上限とした場合、平成31年度推計値で48学級となり、教室が不足してしまう。また当初発表された平成34年度想定値(児童数2,420人、70学級)が、平成29年4月作成の平成35年度想定値には児童数2,990人、88学級に膨れ上がり、校舎増築、学区変更、新設校建設など現時点の教育環境の整備方針では全国トップ水準のマンモス校が本市内で相次ぐこととなる。教育環境の整備方針の再検討をすべきではないか。</p> <p>エ 平成29年4月1日生徒数366人、12学級のおおたかの森中学校は、現校舎内の普通教室として利用可能教室数15学級を平成30年度推計値で超えてしまう。また平成35年度想定値では1,220人、36学級となり、文部科学省の分離新設の目安31学級も超える。さらに学区内の小山小学校及びおおたかの森小学校の児童数合計は、平成29年4月1日時点の1,997人、67学級から平成35年度想定値5,100人、150学級となっていることから、中学校における学区変更だけでなく、中学校</p>

	<p>新設なども次期総合計画の早い時期における着手も視野に検討が必要と思われるがどうか。</p> <p>オ 新設小学校について問う。</p> <p>(ア) 建設候補地が公表されたが、なぜその場所となったのか、確保される面積が必要とされた根拠は何か。</p> <p>(イ) 子どもが少ないまたは住宅そのものが少ない地域で47学級を前提とした新設校建設では、通学路が長距離になる。また、小山小学校・八木北小学校の学区変更の理由の一つである「都市軸道路を横断しないように」という根拠も崩れると思われるがどうか。</p> <p>(ウ) 47学級でスタートするとして根拠として学区割と児童数の推計値・想定値が示されるべきではないか。また学区が分かれるおたかの森小学校の想定値から普通学級に使用可能教室数上限42学級を考慮すれば、新設校が開設して3年後の平成35年度には新設校47学級のうち46学級が埋まり、さらなる校舎増築となる恐れが生じるのではないか。</p> <p>(エ) 文部科学省大臣官房文教施設企画部施設助成課では、「新設校建設費に2分の1補助金がある」としている。少額の加算を優先したがために、小山小学校及びおたかの森小学校のように、十分な広さの校庭の確保や将来的な増築、学童クラブ等に影響することがないようにすべきと思うがどうか。また校舎の新旧やデザインの違いが教育の質にまで格差をもたらしているかのような幻想を抱かせないよう配慮やスタンスが必要と思うがどうか。</p>
<p>2 保育行政について</p>	<p>(1) 保育の待機児と解消策について問う。</p> <p>(2) 保育士給与引き上げに千葉県独自の取り組みが始まると報道されているが、今のままでは本市で支給されないとも聞かれている。本市の対応策について問う。</p> <p>(3) 保育及び学童保育における児童数の推計値・想定値の算出と整備計画の策定について問う。</p>
<p>3 ごみ行政について</p>	<p>(1) あってはならない家庭ごみと事業系ごみの混合がどうして起きてしまったのか、どうやって再発を防止するのか、第1回定例会で「検討する」と答弁していた諸課題について問う。</p> <p>(2) 一般家庭ごみの収集運搬業務委託の今後のあり方について問う。</p>

質問事項	要 旨
1 教育行政について	(1) 安倍内閣が「教育勅語を教材にすることを否定しない」と閣議決定したことについて、市長および教育長の見解を問う。
2 国民健康保険について	(1) 平成30年度からスタートする国民健康保険の都道府県単位化について問う。 (2) 全日本民主医療機関連合会の調査によると、平成28年も流山市において経済的事由による手遅れ死亡事例が3件報告されている。国民健康保険の運営主体として、このような事態についてどうとらえているのか。
3 南部地域のまちづくりについて	(1) 三輪野山地域の水害対策について
4 保健・福祉について	(1) 自殺対策について ア 全国で、条例制定や政府の「自殺総合対策大綱」による自殺対策の取り組みが行われているが、流山市の現状と今後の方向性について問う。 (2) 成年後見制度の利用促進について ア 本市における成年後見制度利用の現状と課題について イ 3月に策定された「成年後見利用促進基本方針」では市町村の役割を明記しているが、流山市としてどう対応していくのか。

質 問 事 項	要 旨
<p>1 憲法 9 条について市長の見解を問う</p>	<p>(1) 安倍晋三首相が憲法記念日の 5 月 3 日、平和主義を定めた憲法 9 条を 2 0 2 0 年までに改正し、自衛隊の存在を明文化する考えを公言したことについて、憲法の尊重擁護義務を持ち、かつ流山市民を代表する立場にある市長として の見解を問う。</p>
<p>2 新川耕地の巨大物流センター建設の市民生活への影響について</p>	<p>(1) 計画の全貌について問う。 (2) 車両通行量の増大と影響について問う。 (3) 埼玉県三芳町の倉庫火災からの教訓に基づき、物流センターの火災事故に対する対策について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 教育行政について</p>	<p>(1) 就学援助について ア 中学校入学時の「入学準備金」は2月に支給が実施されたが、小学校入学時の「入学準備金」も入学前に実施すべきではないか。 イ 文部科学省は「入学準備金」を倍増することを通知しているが本市の取り組みについて問う。 ウ クラブ活動費、生徒会費、PTA会費を対象にすべきではないか。</p> <p>(2) 高校入試制度の改善について 千葉県の県立高校入試制度は前期・後期となっている。中学生の立場に立った時、この制度の見解を問う。</p> <p>(3) 教職員の多忙化解消について ア 多忙化解消の取り組みについての具体化について イ 部活動改善のための検討・取り組みについて</p>
<p>2 グリーンバスについて</p>	<p>(1) 東部地域からセントラルパーク方面への運行の進捗状況について問う。 (2) バス運賃について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 第7期高齢者支援計画の策定プロセスについて</p>	<p>(1) 平成29年度に策定予定となっている平成30年度から平成32年度までの3年間を計画期間とした第7期高齢者支援計画の策定に当たり、第6期高齢者支援計画によって把握された被保険者のニーズの変化などをチェックし、分析結果をどう反映させていくのか。</p> <p>(2) 第7期高齢者支援計画の策定に当たっては、市民参加の手法としてアンケート調査やパブリックコメントの実施がある。その他に、地域に出向いて被保険者や関係者との意見交換会などを取り入れ、高齢者を取り巻く現状と課題の実態把握を行い、計画に反映させてはどうか。</p>
<p>2 人口増加に伴う児童・生徒の受け入れ態勢について</p>	<p>(1) 本年4月に算出した今後6年間の児童・生徒数推計及び想定値から見ると、義務教育期間の児童・生徒の受け入れ態勢として、既設の学校の増改築及び現在検討中の新設校1校の建設では足りないと思うが、当局の見解を問う。</p> <p>(2) 過去にも問題視された校舎の増改築による運動場等の狭小化や特別教室の転用による教育環境の変化について、対応策の検討はどのように進んでいるのか。</p>
<p>3 「待機児童ゼロ」に向けた本市の保育所整備について</p>	<p>(1) 旧国基準による待機児童数(平成28年度146名、平成29年度92名)と保護者のニーズに基づく待機児童数とのかい離は、現在どのようになっているのか。また、「母になるなら、流山市。」を標榜する本市として、「待機児童ゼロ」を実現するためには、どこに一番注力すべきと考え、どんな対応策を進めていくのか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 初石駅周辺の交通安全対策について</p>	<p>(1) 初石駅の周辺には東武野田線と主要地方道守谷流山線が交差する踏切(野第210号踏切)があり、朝や夕方は交通渋滞が発生している。危険な箇所も多く議会でも繰り返し改善が求められている。そこで以下について問う。</p> <p>ア 西初石3丁目交差点は、東武野田線と並行する南北方向には歩行者用信号機及び横断歩道が設置されているが、東武野田線と直角の東西方向には歩行者用信号機も横断歩道も設置されていない。多くの自動車と歩行者が通行する交差点のため、危険であり地域の市民から不安の声も多い。今後の対策についてどのように考えているのか。</p> <p>イ 野第210号踏切は駅から100メートル程度の場所にあることから、大宮方面行きの電車が来た時には、初石駅到着前から長い時間遮断機が降り渋滞を引き起こしている。開いている時間に1台でも多くの車を通行させるために信号機を設置し、青信号のときは一時停止をせず進めるようにすることで渋滞の解消が期待できると思うがどうか。</p>
<p>2 「子ども食堂」について</p>	<p>(1) 経済的な理由から、満足に食事を取れない子どもや、様々な事情から一人で食事をしている子ども達に温かい食事を提供する「子ども食堂」が全国に広がりを見せ、新聞やテレビなどで連日報道されている。現在、流山市でも複数の場所で食事が提供されており、今後更に広まる可能性が期待されると考えるが、以下について問う。</p> <p>ア 現在、市内の子ども食堂の状況をどのように把握しているのか。</p> <p>イ 「子ども食堂」の活動への支援はどのように考えているのか。</p>
<p>3 流山本町、利根運河、キッコーマンアリーナなどの市外への宣伝について</p>	<p>(1) 流山市はマーケティングによる宣伝で効果をあげ、市外からの転入者を増やしてきた。転入はいつまでも期待できるものではないため、今後は交流人口を増やす必要があると考えるが、以下について問う。</p> <p>ア 現在、交流人口増加のために市外に対してはどのように働きかけているか。</p> <p>イ 市外、県外にも本市の観光資源やイベント等の案内看板を設置することで、交流人口の増加が期待できると思うがどうか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 流山市の人口急増による市政への影響について</p>	<p>(1) 人口の増加推計を誤ったことにより、小学校の不足が問題になっているが、その他想定外の人口増加が市に与える影響および課題があるとすればどのように解決していくのか。最高責任者である市長に以下を問う。</p> <p>ア 人口急増の原因をどのように分析しているか。また想定外になった理由は何か。後期基本計画策定時の推計値はどのような手法で算出したのか。</p> <p>イ 住民基本台帳より平成 28 年度下期実施計画時に修正した人口推計値はかなり上振れであるが、この先どう推移していくかについてはどのような方法で策定していく予定であるか。</p> <p>ウ 想定外の人口増加により市の財政はどのような影響を受けているか。歳入歳出について特に注視する点は何か。</p> <p>エ 想定外の人口増加により、新たに実施が必要となる事業には小学校建設以外にどのようなものがあるか。さらにそれらの予算をどのような方法で確保しようと考えているのか。</p>
<p>2 市民と協働する職員育成等について</p>	<p>(1) 市民と協働する職員をこの 15 年間どのように育ててこられたのか。市長の目指した職員像とその成果について問う。</p> <p>ア 後期基本計画の実現を担うとされた 4 C 職員の育成はどう総括するか。</p> <p>イ 実施してきた研修内容とその成果及び導入した人事評価制度の成果、適材適所の人事異動の現状等について市長の見解を問う。</p>
<p>3 総合教育会議の長としての市長の教育理念について</p>	<p>(1) 「学ぶ子にこたえる、流山市。」の実現については、キャッチコピーをみて移住してきた方々から、「キャッチコピーに偽りあり」との声が上がっていることに対して今後はどのような対策をとっていくのか。子どもの急増加に伴う、教育における課題を保護者等子どもを取り巻く環境の問題も含め、どう分析しており、対策を進める予定であるか見解を求める。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 「ふるさと納税」を流山市のブランド戦略に活かす取り組みについて</p>	<p>(1) 本市では、平成29年度から、今まで経済振興部で実施してきた「ふるさと納税市内特産品等贈呈事業」と並行し、マーケティング課で「流山ファンづくり事業」として、新規事業を展開する。これは、流山市のブランド力向上や、流山市が目指す「住み続ける価値の高い街づくり」の実現に向けた戦略に繋がる効果が期待される。一方で「ふるさと納税」の平成27年度の収支は、約1500万円の赤字であり、「ふるさと納税」で寄付をした市民の寄付先の多くが、他市であったと仄聞している。より多くの市民、市外の方に、流山市を寄付先に選んで頂くためには、「ふるさと納税」を、流山市のブランディングの一つととらえた戦略が必要だと考える。そこで、以下について問う。</p> <p>ア 寄付を希望される方に、より共感を得やすい寄付項目の表現について問う。</p> <p>イ 「子育てにやさしい街」や「都心から一番近い森のまち」など、流山市をイメージでき、かつ、流山市のPRにつながる返礼品や、流山ブランドの商品開発についてはどのように考えているのか問う。</p> <p>ウ 寄付リピーターを増やす取り組みについて問う。</p>
<p>2 いじめ対策について</p>	<p>(1) 流山市では今まで、「いじめ」が原因とされる自殺はなかったと仄聞しているが、全国的には、「いじめ」が原因とされる自殺は後を絶たない。「いじめ」による自殺者を断じて出してはいけない、との思いは、すべての人の切なる願いであると思う。そこで、本市における、「いじめ」をなくすための取り組みについて問う。</p> <p>ア 「いじめ」を無くすためには、早期発見と、適切な指導が不可欠と考える。流山市としては、「いじめ」を無くすために、どのような取り組みを行っているか問う。</p> <p>イ 柏市では、市内全中学校を対象に、「いじめ」の匿名報告アプリ「ストップイット」を導入し、いじめ対策にこれまで重視されてこなかった「傍観者」についての理解促進と対策の手法として活用する。本市でも、このアプリを導入してはどうか。</p> <p>ウ 新潟県新発田市では、小中学校で、日本語教育、特に、俳句や和歌に力を入れている。一つの情景を幾通りにも表現できる日本語の美しさを再認識する機会になるとともに、目に見える事象の向こう側にある世界に思いをはせる力を養うことにつながる。それによって、相手の気持ちを推し量る能力を高める効果があり、いじめも減少してきたと仄聞している。本市でも、「いじめ防止教育」の一環として、俳句など、日本語教育にも力をいれてはどうか問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 ヘルプマークの周知に関する本市の取り組み姿勢について</p> <p>2 地域学校協働活動及び特別の教科 道徳への取り組みについて</p>	<p>(1) 平成 29 年第 1 回定例会の一般質問で、外見からは障害があるとわかりにくい義足や人工関節、内部障害や難病の方、認知症や妊娠初期の人などが周辺に援助を求め易くなる「ヘルプマーク」の周知を提案し、「ヘルプマークの普及も視野に入れながら啓発活動に努めてまいりたい。」との答弁だったが、現在の取り組み状況と今後の方針について問う。</p> <p>(1) 平成 29 年 3 月に社会教育法が改正され、地域全体で子供たちの成長を支え、地域を創生する「地域学校協働活動」を実施する教育委員会において、地域住民等と学校との連携協力体制を整備することや、地域住民等と学校の情報共有や助言等を行う「地域学校協働活動推進員」の委嘱に関する規定が整備されたが、本市の現状及び今後の取り組みについて問う。</p> <p>(2) 平成 30 年度から小学校、平成 31 年度から中学校で「特別の教科」化される道徳。文部科学省は先月 5 月 31 日、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「道徳教育アーカイブ」を設置した。この道徳の「特別の教科」化を見据えて、現在、全国の教育委員会で作成されている指導資料や郷土教材、各学校の実践例を収集・整理され「考え、議論する道徳」への転換に向け調整されていると伺っている。今後の道徳教育の推進に役立ててもらうことを目的とし「道徳教育アーカイブ」は設置されたが、本市では「考え、議論する道徳」への転換に向けた取り組みをどのように実施していくのか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 福祉有償運送促進に向けた取組みについて</p>	<p>(1) 外出に困る高齢者が増え、福祉有償運送の利用者は増える見込みである。福祉有償運送を支えるために、行政が担うべき役割について当局の見解を問う。</p> <p>(2) 高齢化した地域では、福祉有償運送はますます重要な役割を担うことになると思うが、一方で、この活動に参加しようとする一般市民の方は自費で講習を受ける。本市は福祉有償運送促進のため、どのような具体的な支援を行っているのか。</p>
<p>2 流山市子ども読書活動推進計画について</p>	<p>(1) 各小中学校にそれぞれ専任の学校図書館司書の配置を要望する声が多いが、パブリックコメントでは市の考えとして「段階的に進める」と答えている。数値目標を定め、具体的な計画を立てるべきではないか。</p> <p>(2) 千葉県子ども読書活動推進計画では、「学校図書館の自己評価」を勧めているが、当市の現状はどうか。</p> <p>(3) 本市がブックスタート関連事業を始めるにあたって、特定非営利活動法人ブックスタートが掲げる「大切な5つのルール」について当局の見解を問う。</p> <p>(4) 子ども司書養成講座を開講すべきと考えるが、当局の見解を問う。</p> <p>(5) 流山市立図書館のホームページに子どもページが必要と考えるが、当局の見解を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 本市の廃棄物対策について</p>	<p>(1) 流山市のごみ焼却施設に関する延命化・長寿命化については、これまで他の議員からも質問があり、その答弁では「一般廃棄物処理基本計画の策定」を、平成 29 年度、平成 30 年度で行い、延命化・長寿命化に関する詳細計画の策定を、平成 31 年度、平成 32 年度で行い、実施を平成 33 年度とされている。</p> <p>近隣の松戸市では、現在 2 つの焼却施設が稼働しているが、その内の 1 つの施設を平成 31 年度末で終了させ、新しい施設が稼働するまでの間、処理しきれない廃棄物を他の近隣市や民間に処理の協力をお願いしていくとされている。そこで以下について問う。</p> <p>ア 本市に対して協力の要請はきているのか、又その内容はどのような内容か。本市における将来を見据えた場合、他市への協力要請も不可欠と考えるが、ごみの更なる減量化、リサイクル率向上化について見解を問う。</p> <p>(2) リサイクル館の包括的な運営受託者の業務履行状況に関する作業の安全確保策及び「報・連・相」の徹底策について問う。</p>
<p>2 自転車活用推進法の取り組みについて</p>	<p>(1) 昨年 12 月の第 192 回臨時国会において、議員立法により自転車を利用しやすい環境整備を進める「自転車活用推進法」が成立し、今年の 5 月 1 日に施行された。この法律は、活用推進にあたって実施すべき重点施策を 14 項目挙げ、自治体は、自転車を、より一層利用しやすくなるよう、環境整備に向けた計画策定に努める必要があると明記されている。本市においても、計画策定を見据えた取り組みを検討すべきと考えるが、以下 2 点について見解を問う。</p> <p>ア 本市では、自転車専用道路や自転車・歩行者分離帯などについて計画的に整備すべきと考えるがどうか。</p> <p>イ 市内駐輪場の稼働率はどのようになっているのか。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 観光資源としての「利根運河」の活用と周辺整備について</p>	<p>(1) 選奨土木遺産としての利根運河を流山市の観光拠点の一つとして考えると、当該地のゾーニングを精査した上で観光地としてあるべき周辺整備を進める必要がある。運河水辺公園へのアクセス駅となる運河駅は、駅単体で見ると、東口の整備も終わりバリアフリー化も図られている。しかし、西口駅前周辺及び駅から運河水辺公園へのアクセスは、車椅子を使用する障がい者の方や高齢者の方にとっては決して親切な整備がなされているとは思えない。そこで以下について問う。</p> <p>ア 運河駅西口周辺の再整備を東武鉄道(株)と共に再考していく計画はあるか。</p> <p>イ 運河水辺公園以外にも最近では眺望の丘周辺もお花見の時などは賑わいを見せ、普段でも多くの方が散歩やジョギングを楽しむ姿を見かける。この周辺においても観光トイレの必要性を強く感じるが当局の見解を問う。</p> <p>(2) 利根運河の観光PR戦略とこれからの事業展開に関して以下について問う。</p> <p>ア 利根運河通水125周年記念式典において設置された手水石の寄贈の経緯とこの先のビリケン像プロジェクトについて問う。</p> <p>イ 利根運河を始め、流山本町等の観光資源、また流山市全体のPR媒体として市内に設置されているデジタルサイネージの利用実績及びその内容と効果、また、今後も活用されていくのかについて問う。</p> <p>(3) 利根運河の水質改善対策に関して、現在利根運河が水質環境基準を満たさない要因は何か。また近隣市、千葉県、国土交通省との連携を含め、今後の水質改善対策について当局の見解を問う。</p> <p>(4) 利根運河新橋設置計画に関して以下について問う。</p> <p>ア 平成19年に纏められ提出された「運河の森整備調査報告書」に対する考察結果が、現在に至るまで、検討会委員にも知らされていないが当局の見解を問う。</p> <p>イ 本年実施される東京理科大学工学部創設50周年記念デザインコンペ「利根運河 夢の架橋」に係わる本市の立場と、この機を活かした今後の事業実現に向けた当局の見解について問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 江戸川台小学校前の歩道の安全確保について</p>	<p>(1)江戸川台小学校の正門から流山江戸川台郵便局方面へと向かう歩道は、自動車道側にはガードレール、小学校校庭側には防球フェンスが設置され、狭隘な状況にある。ガードレールや防球フェンスは、通学路として利用する生徒や近隣住民等の安全を確保するためにも必要不可欠であると認識しているが、歩道が狭隘なため傘を利用する雨天時の接触等の事故防止や、防犯の観点からも何らかの改善が必要と考える。そこで以下の点について問う。</p> <p>ア 既存のガードレールや防球フェンスはどのような経緯で設置されてきたのか。</p> <p>イ 雨天時の往来や防犯上の観点から、同歩道の危険性について当局はどのように認識しているのか。また、これまでどのような対策を講じてきたのか。</p> <p>ウ 狭隘な歩道での接触事故等から生徒を守るためにも、登下校の際には正門だけでなく、小学校南側の門を活用することも有効な手段であると考えるが、当局の見解を問う。</p>
<p>2 認知症による徘徊高齢者の早期発見対策について</p>	<p>(1)認知症及び認知症のおそれのある徘徊高齢者に関する問題については、平成 28 年第 4 回定例会の市政に関する一般質問でも取り上げ、早期発見の取り組みの更なる拡充を要望したが、改めて以下の点について問う。</p> <p>ア 前回の一般質問以降、流山市 SOS ネットワークの拡充について流山警察署とどのような協議が行われてきたのか。また拡充に向けての具体的な取り組みはどのように行われていくのか。</p> <p>イ 徘徊高齢者の早期発見及び家族の精神的負担軽減等の効果が期待できる(仮称)あんしんシールや、アイロンシール配布事業を本市においても早急に実施すべきと考えるが、当局の見解を問う。</p>

質問事項	要 旨
<p>1 介護保険制度が抱える課題と本市の対応策について</p>	<p>(1) 厚生労働省は、介護予防・日常生活総合支援事業に取り組む自治体の、昨年 10 月時点での実施状況を公表した。15 年 3 月時点と比べて事業所数は増えているが、住民主体のサービスは訪問型サービスが 3.9%、通所型サービスは 12.9%にとどまり、伸び悩んでいる姿が浮き彫りになった。流山市における介護予防・日常生活総合支援事業の現状をどうとらえているのか。また今後の課題についてどのように考えているのか。</p> <p>(2) 市が「地域包括ケアシステムの中心的役割を担うサービス」と見なし、「このサービスの普及と定着を図ることが優先的に取り組む課題」だと主張してきた定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスの事業者が、昨年 12 月に撤退してしまった。その原因・背景をどうとらえているのか。またこのサービスにおける今後の課題や見通しをどのように考えるのか。</p> <p>(3) 消費者庁は本年 5 月 19 日に、介護研修などを行う日本教育クリエイト（三幸福祉カレッジ、日本医療事務協会）に対して、景品表示法違反（有利誤認）に当たる不当な表示の再発防止を求める措置命令を出した。流山市が行う介護職員初任者研修や介護職員実務者研修の受講費助成を受けた方で、同事業者の下で研修を受けたケースはあったのか。また、こうした事業者に対して市としてどのような対応をとる必要があると考えているのか。</p>
<p>2 国民健康保険制度の広域化（都道府県単位化）について</p>	<p>(1) 国民健康保険制度における、子どもの医療費助成に対する国の補助金や助成金の減額調整措置は、医療費助成を行う自治体へのペナルティーの役割を果たしてきた。この減額調整措置は、広域化によってどのように変わるのか。またそのことに対して流山市はどう考え、どう対応するのか。</p> <p>(2) 市から県への納付金の額、県が市に示す標準保険料率、市による保険料の決定について、千葉県国民健康保険運営協議会と県と市町村との連携会議における協議の到達点はどのようなものか。それに対して流山市はどのように考えているのか。</p> <p>(3) 国民健康保険制度の広域化は、国民健康保険制度における保険料負担の重さ、財政運営の不安定さなどの様々な課題の解決策になり得ると考えるのか。国民健康保険制度の運営の実務の現場から、この制度が抱える課題の解決において何が重要だと考えているのか。</p>



NAGAREYAMA